

損益計算書の概要

損益計算書は、事業年度内に徳島大学が実施した事業等により発生した全ての費用と収益を記載することによりその運営状況を明らかにしています。

経常費用	27年度	28年度	増減
業務費	430.1	430.7	0.6
教育経費	20.1	17.7	△ 2.4
研究経費	25.0	23.9	△ 1.1
診療経費	146.4	150.4	4.0
教育研究支援経費	2.9	2.7	△ 0.2
受託研究等経費	19.0	17.4	△ 1.7
人件費	216.8	218.7	2.0
一般管理費	11.9	11.3	△ 0.6
財務費用	3.3	3.0	△ 0.3
経常費用合計	445.3	445.0	△ 0.3

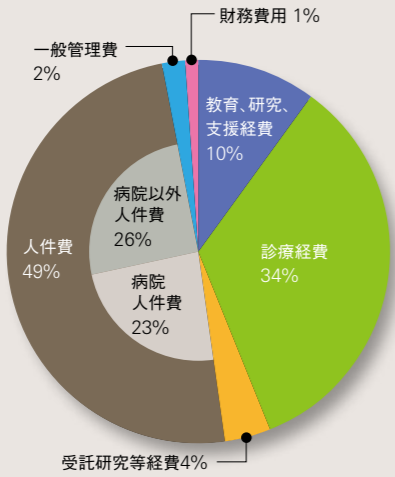
臨時損失	27年度	28年度	増減
固定資産除却損	0.9	3.5	2.6
その他臨時損失	0.5	0.7	0.2
減損損失	0.0	0.9	0.9
臨時損失合計	1.4	5.1	3.7

当期総利益	27年度	28年度	増減
当期総利益	0.8	1.1	0.3

注) 単位未満を四捨五入しているため、必ずしも計及び増減は一致しません。

経常費用構成 (28年度)

経常費用合計
445.0億円



【経常費用の概要】

- ・経常費用は、人件費が全体の約5割を占めています。
- ・教育経費、研究経費の減は、消耗品費、備品費等の減少によるものです。
- ・診療経費の増は、附属病院収益の増加に伴う医薬品や診療材料等の増加によるものです。
- ・人件費の増は、退職手当の増加、人事院勧告の影響による増加によるものです。

経常収益	27年度	28年度	増減
運営費交付金収益	122.6	122.8	0.2
学生納付金収益	44.2	44.7	0.6
附属病院収益	213.5	222.3	8.8
受託研究等収益	19.2	17.1	△ 2.1
施設費収益	0.3	1.0	0.7
補助金等収益	9.0	5.2	△ 3.9
寄附金収益	15.2	13.9	△ 1.3
資産見返負債戻入	15.7	15.5	△ 0.3
雑益	5.5	6.8	1.2
経常収益合計	445.3	449.2	3.9

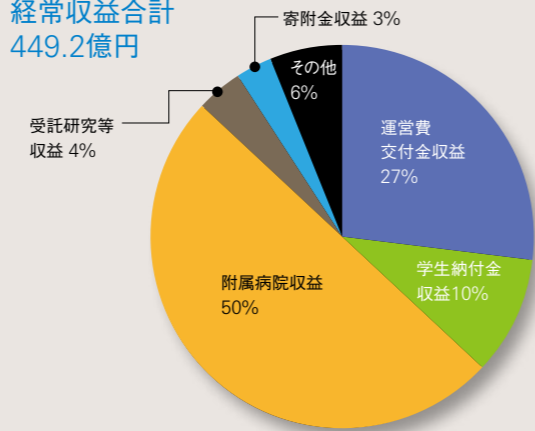
臨時利益	27年度	28年度	増減
運営費交付金収益	1.8	0.0	△ 1.8
保険金収入	0.0	0.3	0.3
臨時利益合計	1.8	0.3	△ 1.5

前中期目標期間繰越積立金取崩額

	27年度	28年度	増減
前中期目標期間繰越積立金取崩額	0.4	1.8	1.4

経常収益構成 (28年度)

経常収益合計
449.2億円



【経常収益の概要】

- ・経常収益は、運営費交付金収益と附属病院収益で全体の約8割を占めています。
- ・附属病院収益は、外来患者数の増加及び平均在院日数の短縮等により8.8億円の増加となっています。
- ・受託研究等収益、補助金等収益、寄附金収益の減は、受入額の減少によるものです。

貸借対照表の概要

貸借対照表は、決算日(平成29年3月31日)における徳島大学の全ての資産、負債及び純資産を記載することによりその財政状態を明らかにすることを目的としています。

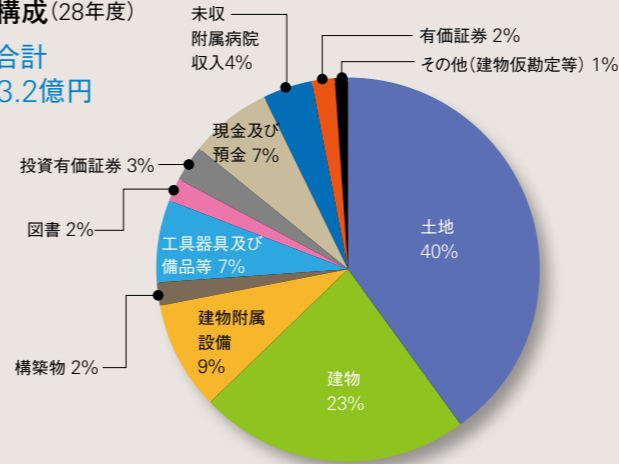
資産の部	27年度	28年度	増減
土地	448.1	448.1	0.0
建物	271.1	260.7	△ 10.4
建物附属設備	114.1	100.3	△ 13.9
構築物	21.9	20.5	△ 1.4
工具器具及び備品等	94.5	82.1	△ 12.4
図書	27.0	26.4	△ 0.6
投資有価証券	38.6	33.5	△ 5.1
現金及び預金	74.7	74.1	△ 0.7
未収附属病院収入	46.1	45.7	△ 0.4
有価証券	25.0	20.0	△ 5.0
その他(建設仮勘定等)	12.3	11.8	△ 0.5

資産の部合計	1,173.5	1,123.2	△ 50.3
--------	---------	---------	--------

注) 単位未満を四捨五入しているため、必ずしも計及び増減は一致しません。

資産構成 (28年度)

資産合計
1,123.2億円



【資産の概要】

- ・土地が全体の4割を占めています。
- ・建物、建物附属設備、構築物の減は、減価償却及び病院外来診療棟取り壊しによる除却等によるものです。
- ・工具器具及び備品等の減は、病院医療設備のMRI診断システム等を整備しましたが、減価償却費及び除却費等がこれを上回ったことによるものです。
- ・投資有価証券、有価証券の減は、満期到来に伴うものです。

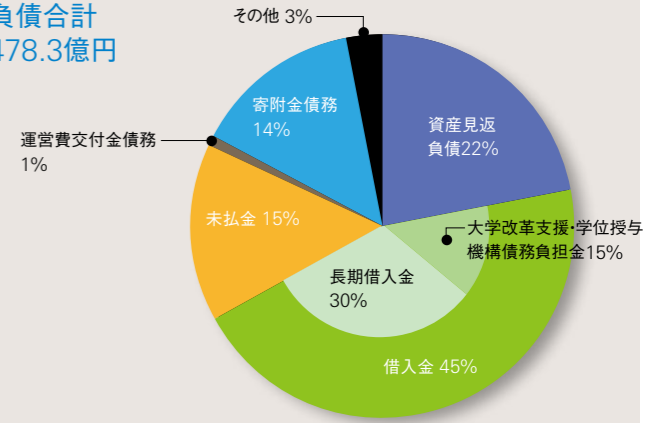
負債の部	27年度	28年度	増減
資産見返負債	117.9	106.3	△ 11.5
借入金	228.1	217.7	△ 10.4
未払金	92.5	71.9	△ 20.6
運営費交付金債務	0.0	3.7	3.7
寄附金債務	64.8	65.1	0.3
その他	13.2	13.6	0.4
負債の部合計	516.5	478.3	△ 38.2

純資産の部	27年度	28年度	増減
資本金	467.3	467.3	0.0
資本剰余金	101.1	90.1	△ 11.0
利益剰余金	88.7	87.7	△ 1.1
純資産の部合計	657.0	644.8	△ 12.2

負債及び純資産合計	1,173.5	1,123.2	△ 50.3
-----------	---------	---------	--------

負債構成 (28年度)

負債合計
478.3億円



【負債の概要】

- ・借入金が全体の半数近くを占めています。
- ・資産見返負債の減は、平成27事業年度と比較して資産の取得が減少したことによるものです。
- ・借入金の減は、病院の施設、設備に係る借入金の返済を行ったことによるものです。
- ・未払金の減は、平成27事業年度に計上されていた病院外来診療棟工事に係る未払金について、平成28事業年度において工事の完成により減少したことによるものです。
- ・運営費交付金債務の増は、理工学部の機械棟等空調設備改修等事業と、情報センターの情報基盤強化等事業について、業務達成基準の適用事業とし、第3期中期目標・中期計画期間内において翌年度以降に繰越したことによるものです。

診療経費の増加や人事院勧告の影響などによる人件費が増加している一方で、教育研究関連の消耗品費、備品費等が減少したことにより、平成27事業年度と比較して0.3億円減少しています。経常収益(大学の運営に伴う収益)については、附属病院収益などの増加により、平成27事業年度と比較して3.9億円増加しています。

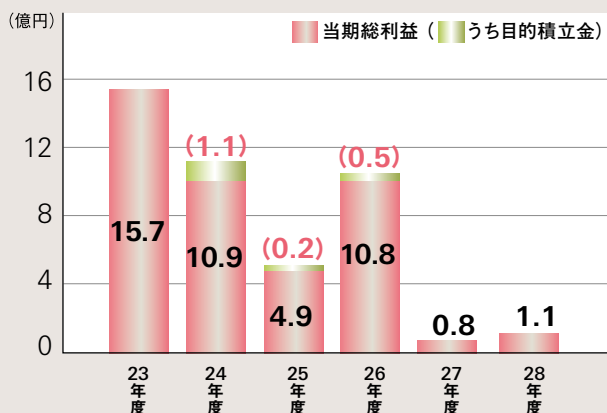
大学運営に係る財政基盤の多くは、国からの補助で支えられています。この補助金の大部分を占める運営費交付金は、法人化翌年の平成17年度から基幹となる部分に効率化や機能強化促進のために一定の係数(1%以上)が掛けられ、毎年約1億円ずつ(平成29年度までの累計額約14億円)減額されています。これは徳島大学の財政状態が極めて厳しくなることを意味しており、この状況に対応するため、大学改革等における予算等の獲得及び自己収入の増加に取り組んでおりますが、少なくとも平成33年度までこの減額が予定されている中、安定した経営を行っていくためには、更なる経費の節減を図るとともに、積極的な外部資金の獲得に努めていくことが重要となっています。

この財務レポートは、徳島大学の現在の財務状況をできるだけ分かりやすくお伝えするため、平成28事業年度財務諸表をもとに作成いたしました。

平成16年4月、徳島大学は他の国立大学と同様に法人化し、国から独立した経営体としての運営を行うこととなり、平成28事業年度で法人化後13年が経過しました。

平成28事業年度の財務状況ですが、経常費用(1年間大学を運営するための費用)については、

当期総利益・目的積立金の推移



【目的積立金の概略】

国立大学法人は、原則として企業会計に基づき会計処理を行います。公共的な性格を有していること、利益の獲得を目的としないこと、独立採算制を前提としないこと、補助金(運営費交付金)を受けて事業を実施する法人であることなどから、損益均衡の原理が会計制度の基本となっています。一方で、経費の節減、自己収入の増加など経営努力を行った際には利益が生じることになり、当期総利益のうち文部科学大臣の承認を受けた額については目的積立金として積み立てられ、翌事業年度への繰越及び使用が可能となります。

この目的積立金は、徳島大学の中期計画で定めた用途に充てることができ、「決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる」と定めています。平成24事業年度～26事業年度に発生した目的積立金については、当初の計画どおり平成27事業年度に病院外来診療棟新営事業等に全額充当しています。なお、平成28事業年度は目的積立金として申請するものではありません。

平成 28事業年度における教育・研究活動及び診療活動等の取組

【生物資源産業学部創薬・医療機器開発施設の開所】

平成28事業年度 支出額 約1,000万円

平成28年7月、生物資源産業学部農場に、創薬・医療機器開発施設を開所しました。

本施設は、疾患モデルブタの作製及び飼育のためのクリーン飼育設備、作製した疾患モデルブタの検査設備、胚移植・実験や外科手術トレーニングを行うための簡易手術設備などを備えた、我が国においても有数の疾患モデルブタ作製施設であり、本学の医歯薬学研究部や先端酵素学研究所を始め、他大学とも連携することで、世界トップレベルの教育研究拠点創出を目指しています。



【インテリジェント手術室の新設】

平成28事業年度 支出額 約9,200万円

平成29年3月に手術室の改修を行い、内視鏡外科手術で用いる複数の機器の操作を一元的に統合し、術者がタッチパネルで手術台、内視鏡機器、並びに照明機器を操作でき、かつ演出LED照明、高精細4K55インチのモニターを備えたインテリジェント手術室を導入しました。術者がタッチパネルで操作できる手術台の導入は日本初、また、4K3D天吊りモニター、医療・映像操作システム、面発光LED照明、演出照明、無影灯連携の導入は四国初となります。進化したインテリジェント手術室では、より精密・的確な手術を行うことが可能となり、手術時間が短縮できるなど、患者さんの負担軽減を図れます。



【まとめ】

平成28事業年度は第3期中期目標・中期計画(平成28事業年度～平成33事業年度)の初年度にあたり、自己収入の確保、予算の効率的執行に努めた結果、経常収益が3.9億円増加、経常費用が0.3億円減少する等、良好な財務状態を維持し、順調に第3期のスタートを切ることができました。

しかし、徳島大学の財政基盤を支える国からの運営費交付金については、毎年減額されている状況であり、本学を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。このような状況のもとで安定した経営を行うためには、更なる経費の節減、自己収入の増加、クラウドファンディングを活用した研究資金の確保及び競争的資金の獲得に努めるとともに、「知を創り、地域に生き、世界にはばたく徳島大学」として、教育・研究・社会貢献及び診療の各分野にわたり、その充実と不断の見直し・改善を進めて参ります。今後ともご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。